

## 令和7年度 小金井市立東小学校 自己評価・学校関係者評価(中間まとめ)

学校教育目標 支え合い、学び合い、高め合いの精神を大切にし、小金井の地に育ちこれから22世紀の世界に羽ばたく人間として、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する  
○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

## を目指す学校像(ビジョン)

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 【目指す学校像】    | ○家庭・地域とともに豊かな心を育てる学校 |
| 【目指す児童・生徒像】 | ○心豊かで思いやりのある子どもを育成する |
| 【目指す教師像】    | ○使命感をもち、組織的に行動する教師   |

- 主体的に学び合い、確かな学力を身に付ける学校
  - 自分で考え行動できる子どもを育成する(本年度の重点)
  - 常に学び続け、自己の能力を向上させる教師

- 自ら考え、自主的に行動する態度を育む学校
  - いつも健康で、明るく元気な子どもを育成する
  - 児童・保護者・地域等から信頼される教師

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

日々の授業や研究授業を通して、問題解決型の学習が定着してきた。今年度は、「授業改善推進指定校」として、「児童が主体となって問題を見出し解決する授業」や「対話により学びが深まる授業」に重点的に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

	具体的な方策	第1回評価		課題と対策	第1回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
授業変革の推進	見通しをもって問題解決するための手立てを工夫した授業を実践する。	3	4	児童が主体的に学ぶように、問題解決の学習の流れが分かるフローチャートを全教室に掲示した。ノート作成のコツが書かれたプリントの配布や、自分自身で選択できる数種類のワークシートを用意し、9割以上の児童が問題を解決する方法を考えながら学んでいる。今後も継続していき、一層の定着を目指す。	フローチャートやノート作成のコツを実際に合わせて作成しているなど、主体的に学ぶ工夫がされていることが分かった。学力調査の結果が東京都や国の平均より高いことは、これまでの取組の成果が表れている。特に「根拠をもって説明する」項目で15%も平均を上回る結果は素晴らしい。これからも継続して取り組んでいけるとよい。
	学習内容と日常生活との関連を図った授業を実践する。	3	3	主に単元の導入や終末において、自分たちの生活体験と関連付けて授業を展開をしている。6年生の「ものの燃え方と空気」の学習では、学んだことを林間学校のキャンプファイヤーに生かそうとした。1年生でも、授業で探検を行った公園に、放課後も遊びに行く様子がある。全ての教科で、生活との関わりをもたせ、「学習が生活に役に立つ」という気持ちを高めていく。	理科の授業後、何人の児童が虫取り網を持って休み時間を過ごす姿が見られた。普段の授業だけでなく、行事などの取組や掲示物・展示物の工夫などにより、学習内容と日常生活とを関連付けられるような工夫がされている。生活科、理科、生活単元学習に加え、他の教科でも生活との関連が意識できる工夫を続けていてほしい。
子どもの権利の尊重	子どもの権利を尊重し、教育活動全体において、子どもの声や意見を聞く姿勢を大切にする。	3	3	「こどもオンブズパーソン」など子どもの権利に関する授業や、子どもの意見を学校生活に生かす取組を各学年の成長段階に応じて行っている。学年が上がるにつれて、自力解決しようとする傾向があるが、全校朝会や学級指導において、SOSの出し方やSCなどの相談窓口の紹介を行うなど、困った時は、すぐに相談するよう呼び掛けている。	校内別室指導「かしの木」教室が週5日開室していることが、保護者にとっても非常にありがたい。登校できた際に、学級の児童の挨拶や言葉掛けがとても温かく感じる。保護者も児童も悩んでいることがあるので、これからも目を向けられる体制でいてほしい。作品の掲示などは、児童の気持ちを大切にしながら個々に対応していくといい。
	挨拶がコミュニケーションの第一歩であることを意識し、学校・家庭・地域で自ら挨拶する習慣が身に付くよう指導する。	4	3	朝、多くの児童が自分から「おはようございます」と挨拶をしている。また、こちらから挨拶をすればほぼ全員から挨拶が返ってくる。ただし、「自らすすんで挨拶をしている」の児童の自己評価は8割強であった。今後も、校外学習の機会を活用し、地域やゲストティーチャーなど、お世話になった方々に児童自ら挨拶をしたり、お礼を伝えたりする態度を育んでいく。	昔遊びや地域探検のボランティアに参加すると、児童の方から挨拶があった。低学年ではまだ緊張している様子も見られる。今後も関わりを続け、顔を覚えてもらい、人となりを知つてもらうことで距離感を縮めたい。児童が自然と挨拶できるようになるために、大人が挨拶する姿を見せていくなど、児童の成長を支えながら習慣が身に付くようにしていければと考える。
地域との協働の推進	学校だよりや学年だより、ホームページ、まなびポケット等を活用し、教育活動の様子やお知らせ等を積極的に発信する。	3		ホームページや学年だよりにおいて、行事だけでなく、日頃の授業の様子をより多く発信するようにした。また、各学年の廊下には、これまでの学習の成果が伝わる掲示をするように努めている。ホームページやまなびポケットといったデジタルと、校内掲示といったアナログのよさを生かしながら、引き続き積極的に発信をする。	雷による下校時刻の変更の連絡など、保護者としてありがたかった。お知らせがまなびポケットに移行したことにより、他の通知に埋もれず見落としが減っている。小学校と中学校で分かれていることもよい。メールと違い、未読率も確認できるとのことなので、解消する手段を今後も講じていけるとよい。
	地域学校協働本部の協力を得ながら、地域人材やゲストティーチャーを活用した教育活動を推進する。	3	4	2年生が農家の方に野菜の育て方を学んだり、5年生が町会の方に地域の防災倉庫を案内していただいたりする授業を行った。また、今年度、発足したボランティア組織「ねこのてクラブ」の協力により、運動会を円滑に進めることができた。引き続き、地域学校協働本部の協力を得ながら、各学年において地域人材と連携した教育活動の充実を図る。	2学期以降も地域人材を活用した授業を続けてほしい。今年度、発足したボランティア組織「ねこのてクラブ」は、現在70人ほどの登録がある。バッヂを着用し、取組を広めていきたい。卒業した児童の保護者も残っていただくななど裾野を広げていく。
特色ある学校づくり	タブレット型パソコンを効果的に活用し、協働学習やプレゼンテーションを積極的に行う。	3	4	各教科等の学習でタブレット型パソコンを計画的に活用することで、児童は操作に慣れてきている。併せて情報モラルの指導を充実するため、今年度から学期に一度、情報朝会を実施している。「どのような場面で使うのか」「発信する時に何に気を付けるのか」という活用ルールやモラルを全校で指導していく。	デジタル機器を使う能力は児童の方が高い時がある。トラブルに巻き込まれることも考えられる。だからこそ、学校が「ならぬことはならぬ」といった情報モラルを計画的に指導してくれることはありがたい。学校や地域、家庭のどの大に聞いても、共通の指導ができるよう、「さくらプラン」に新しい項目を加えててもよいのではないか。
	体力テストの結果を基にした取組や、なわとび甸間、外遊びの奨励などを通して、積極的に体を動かそうとする習慣を付ける。	3	4	暑さにより外遊びができない日もあったが、熱中症対策など児童の安全を第一に考え、運動会や体力テストに向けての取組を行った。今後、運動委員会において、教員が整理した体力テストの分析を基に、児童にも課題に応じた運動を話し合わせ、授業や休み時間に、学校全体でその運動に取り組んでいく。	アンケートを見ると、「運動が好き」に比べ「運動をしている」という項目で肯定的な意見が低くなっている。昨年度、投げる力を育てるために実施したボール投げゾーンを復活させなど、まずは経験できる環境を整えることにより機会を設け、運動する習慣を育んでいってほしい。
	縦割り班活動や、ひまわり学級との交流、学校行事や学級活動等で、児童同士が協力して運営できるようにする。	3	4	縦割り班活動では、ひまわり学級を含めた各班で、6年生を中心に楽しく活動している。集会では、担当委員会の児童が、活動内容や目標、全校児童への呼び掛けを自分たちの言葉で発信するようになってきた。2学期は、SDGs委員会が各委員会のハチドリプロジェクトを紹介する予定である。各学級でも環境保全のために自分できることを継続して実践していく。	縦割り班活動では、高学年の児童が役割を果たし、全校児童が楽しんで取り組んでいることが伝わってくる。中休みとモジュールの時間を作ることで時間的にも余裕が生まれ、充実しているのだろう。東小学校の伝統、よさでもあるので、これからも続けていってほしい。
	授業や学習発表会において、話し手と聞き手が双方に向かって考えを伝え合う実践を行う。	3	4	学習発表会のスローガンは「見て！聞いて！届けよう！ぼくたち、わたしたちの学び」となり、児童の伝え合おうとする意識が高まっている。今後も、児童の対話や討論の機会を授業の中で適宜設け、どのように対話をしたらよいかの好事例や対話の視点、学習のねらいに応じた質問の話型を示し、児童の対話力の向上を図る。	対話活動を進めることによって、児童が自信をもって自分の考えを表現できている。ゲストティーチャーが驚くほど積極的に自分の考えなどを伝え合っている姿は児童の成長が分かる好事例であると言える。これからも児童が主体的に対話する授業を充実させていってほしい。学習発表会本番も楽しみである。